

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	社会福祉協議会活動推進支援事業	会計	一般会計	事業No.	92	施策順No.	33-006
		事業種別	政策・その他	予算科目	3-1-1-12-1		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり			課等名	福祉課		
施策	33 共に支えあう地域福祉の推進			事業期間	開始	終了	

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	飯田市社会福祉協議会 補助金支出先: 飯田市社会福祉協議会						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		地域福祉関係の社協への委託事務事業の数(経常的なものを除く)	7	5	5	7	7	
	意図	効果的に運営することができる						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	目標に対し80%以上の実績を達成した事業数/地域福祉関係の社協への委託事務事業の数 %	88.9	60	90	90	100	100	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	飯田市社会福祉協議会が健全な法人運営を行うことで、地域福祉の担い手としての役割を十分果たすことができています							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	飯田市社会福祉協議会(社協)は、民間事業者では担えない公共的な福祉サービスの提供を行っており、団体としての必要性や公益性は高い。また、地域福祉の推進役として行政と地域の橋渡し役を担い、地域における多様な福祉ニーズに応えるため、社協が地域のボランティアと協力しながら地域の特性を踏まえ地域福祉活動を実施している。現場において住民と共に問題解決に向け活動する地域福祉コーディネーター設置事業も統合している。しかし、社協の自主財源のみでは法人運営が出来ないことから補助金を支出する。住民主体の助け合い活動の一層の推進を図る。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 飯田市社会福祉協議会の法人運営に係る事業費の補助 (1) 法人運営にかかる補助 (2) 上村事業所運営に係る補助 (3) 南信濃事業所運営に係る補助 2 飯田市社会福祉協議会の法人運営に係る事業費の補助による職員数 (1) 正規職員 (2) 臨時非常勤職員 3 地域福祉コーディネーターによるサロン開設の支援	1 事業所数 2 (1) 補助分正規職員数 (2) 補助分臨時職員等人数 3 サロン設置数	1 3箇所 2 (1) 14人 (2) 7人 3 71箇所
23年度実施計画	1 飯田市社会福祉協議会の法人運営に係る事業費の補助 法人運営にかかる補助(南信濃出張所含む) 2 飯田市社会福祉協議会の法人運営に係る事業費の補助による職員数 (1) 正規職員 (2) 臨時非常勤職員 3 地域福祉コーディネーターによるサロン開設の支援	1 事業所数 2 (1) 補助分正規職員数 (2) 補助分臨時職員等人数 3 サロン設置数	1 2箇所 2 (1) 12人 (2) 6人 3 70箇所

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
一般財源		72,209	72,209	72,209		
計(A)		72,209	72,209	72,209		
正規職員所要時間			10			
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			36			
トータルコスト A+B			72,245			

4 事業に対する市民や議会の意見

--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	市民が共に日常生活を支え合う	施策の成果指標又はムトス指標	近隣で支えあいができている市民の割合(%)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	「市民が共に日常生活を支え合う」という目的達成のため、その活動の根幹を担う社会福祉協議会の法人運営にかかる経費を補助している。		
	後期に向けた課題	社会福祉協議会へは様々な事業が委託等されており、法人運営に対する補助との整理が必要である。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	職員が全力で事業に取り組めるように安定した法人運営に対して補助を行うことができた。		
	後期に向けた課題	引き続き、安定した法人運営を行えるよう補助していく必要がある。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	社会福祉協議会が経営健全化の取り組みを行ってきた。		
	後期に向けた課題	引き続き、経営健全化の取り組みを推進するよう促していく。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	社会福祉協議会の成り立ちから市が深く関わっており、他の収入も見込め無いことから、法人運営に対する補助が必要不可欠である。		
	後期に向けた課題	委託や補助事業として市から支払われている部分もあり、あらためて法人運営への補助との整理が必要である。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	福祉のまちづくりパートナーシップ協定にあるとおり、市と社会福祉協議会が各の役割で力を発揮することが、必要不可欠である。		
	後期に向けた課題	今後もパートナーシップ協定に基づき、各の役割を果たしていく必要がある。		
全体を通じて	4年間の振り返り	福祉のまちづくりパートナーシップ協定にあるとおり、市と社会福祉協議会は地域福祉活動の推進役として役割を担ってきている。		
	後期に向けた課題	引き続き、地域福祉の推進に向けて役割を果たしていく必要がある。また、他の委託や補助事業と法人運営への活動推進補助金とをあらためて整理する必要が生じている。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	--